

貨物会社が「活用策」要員生み出しのための合理化案提案 「出向」への道開く貨物合理化許すな 9/14

日刊 勤労千葉

87. 9. 12
No. 2653

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五六（公衆）〇四七二二二七二〇七

10月1日実施を粉砕せよ！

九月四日の団体交渉において、貨物会社関東支社は「業務改善による体制見直しとその活用策について」の提案を行ってきた。「鉄道事業の基盤を確保するため」と称し欠員状況のうえにさらに要員合理化を行い、販売体制への振り分け、関連事業等への出向要員を生み出そうとするものであり、断じて許すことはできなす。

五ヶ月ではやくも破綻

貨物会社当局は「新会社発足後五ヶ月間の収入が目標の九五%であり、収入をあげるために関連事業を強化する」とし、次の活用策を実施するとしている。

- (1) 販売体制の強化
- ① 営業体制強化
- ② 営業センター統合に伴う駅機能強化
- (2) 新規関連事業の開発
- ① 旅行等の開設要員の確保
- ② 損保業の開設要員の確保
- ③ その他、新規事業の準備要員確保
- (3) 用地管理、契約の要員確保
- (4) 委託事業の直営化及び見直し
- ① フロント委託の直営化と見直し
- ② 外注の直営化

関東支社内八九名の合理化案

そして、これらの活用策を実施するには約百名の要員が必要であるとし、十月一日をもってする要員合理化を提案してきた。

提案では、営業で五九名、運転で百十名、施設で三九名、合計二〇八名の要員合理化となっており、勤労千葉関係では次のとおりである。

- 予備（波動を含む）の見直し
機関士 △2
- 庶務業務の体制見直し
事務係 △1

〔佐倉機関区〕
○ 予備（波動を含む）の見直し
機関士 △4

欠員状況下における「活用策」の要員生み出しは言語道断

貨物会社は一二五〇〇名の定員のところ、五〇〇名の欠員のまま発足し、旅客会社から八〇名を借りてもなおかつ、現在、大巾な欠員状況下にある。にもかかわらず、「活用策」の要員生み出しのために、さらに要員合理化を行うとは言語道断である。

欠員状況のうえに、「予備の廃止」等要員合理化の強行は、当然にも年休抑制となり、労働強化、運輸事故につながるものであり、加えて、関連事業への出向等は断じて認めることはできない。

勤労総連合は提案の撤回を要求し、団交を打ち切った。

（詳細は交渉ニュース参照）

当面するスケジュール

9/22（火） 青年部全支部交流会
千葉運転区支部組合事務所
18時より

24（水） 関川前委員長追悼集会
千葉市、労働者福祉センター
大ホール
13時より

訂正—前号の間違いで、左上二人目青藤君(菊張)を、田中君(菊張)に訂正します。